

マテリアリティ4 持続可能な地球環境への取り組み

■ コミットメント

循環型社会への移行を目指し、脱プラスチックを含めた製品のライフサイクルにおける環境負荷低減への取り組みを進めます。特に温室効果ガスの削減については、2050年までに温室効果ガスの排出実質ゼロの実現を目指します。

■ 中長期目標

取り組みテーマ	評価指標	中期目標		2023年度進捗	取り組み事例
		目標値	達成年度		
脱炭素社会への取り組み	スコープ1+2におけるCO ₂ 排出削減量(2013年度比)	日本、海外におけるCO ₂ 排出量(スコープ1+2)を2013年度比で43%以上の削減	2027年	22.0%削減	P.57へ
	CO ₂ 排出量ネットゼロの実現	2050年ネットゼロに向けたシナリオが完成している	2027年	海外各社におけるスコープ3算定に組み込み中	P.57へ
	化石資源由来のバージンプラスチック排出抑制率	25%以上	2027年	4.0%	P.60へ
製品の環境配慮	自社基準による環境配慮製品比率	国内商品の90%を環境配慮製品(自社基準クリア)とする	2027年	61.3%	P.60へ
廃棄物削減	製品・販促物の削減率(2022年度比)	65%以上	2027年	20.4%	P.60へ

近年、気候変動やプラスチック海洋汚染問題に代表される環境問題は、その深刻度が年々増しており、2021年に発表された「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)の第6次評価報告書では、「人間の影響が大气、海洋および陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」とされ、近年頻発している猛暑や大雨などの極端現象の増加にも人間活動の影響

が表れていると結論されました。

生活者・投資家等をはじめとしたステークホルダーの地球環境に対する意識が強くなっていることから、将来の当社の事業活動の継続性にも影響を与えるものと認識しており、企業として地球環境への取り組みを推進させることが、企業価値の向上につながると考えております。

取り組み事例 1

■ TCFD*1 提言に基づく開示

時代を生き抜くダイナミズムとともに社会生活を送る善良なる企業市民として、また、本業を通じたお役立ちの進化と企業価値の創造に向けてより効果的な活動につなげるため、2022年6月に「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」への賛同を表明しました。TCFD提言の枠組みを活用することで気候変動に関するガバナンスをより強化するとともに、各種イニシアティブから開示されているシナリオを

参考にシナリオ分析、気候変動に伴って生じるリスクと機会の抽出、その財務的な影響に対する評価を行っております。



*1 TCFD: Task force on Climate-related Financial Disclosures (気候関連財務情報開示タスクフォース)

ガバナンス

当社では、気候変動への対応をサステナビリティ経営における重要課題としてとらえ、マテリアリティでの取り組みテーマの一つとしております。また、中長期目標*2を策定し、社長執行役員を委員長とし、経営層にて構成しておりますサステナビリティ委員会*3、および、その下部委員会である関連委員会にて議論し、その内容を経営会議、取締役会に諮り、実行状況の把握、審議を実施しております。

戦略(機会・リスクの分析)

気候変動課題については、温暖化防止策の状況により、さまざまなシナリオが考えられます。当社グループでは、各種資料を参考に、代表的とされる平均気温「1.5°Cシナリオ」と「4°Cシナリオ」*4を参照し、事業経営における移行リスクと物理的リスクの検討を行っております。当社事業のドメインである製品を通じたお役立ちへの影響に関して、リスクと機会、およびそのインパクトを分析し、積極的に取り組んでまいります。

*2 「サステナビリティ上の重要課題(マテリアリティ)に関する中長期目標と進捗」P.26をご確認ください。

*3 「サステナビリティ推進体制」P.27をご確認ください。

外部サイト

*4 参考とした各種シナリオ例

WEB : AR6 Synthesis Report: Climate Change 2023
: IPCC > World Energy
: World Energy Outlook (WEO) 2022: 国際エネルギー機関(IEA)

マテリアリティ4 持続可能な地球環境への取り組み

リスク管理

当社では、サステナビリティ委員会の下、関連委員会にて気候関連の機会とリスクに関する事業活動への影響度の検討を行った上で、グループ全体の状況把握と対応の検討を行い、サステナビリティ委員会での審議・承認、経営会議、取締役会への報告により、各重要課題(マテリアリティ)、目標に対する進捗管理を行っております。

また、排出量の実績については、グループ全体の自社が使用するエネルギーや電力に由来するCO₂排出量(スコープ1+2)、および、日本事業におけるバリューチェーンでのCO₂排出量(スコープ3)を年1回算出し、目標に対する進捗管理

を行っております。^{*5}

特に、CO₂排出量に関しては、スコープ2での電力使用に由来する排出、スコープ3での原材料の調達、製品の使用による排出が大きいたことが認められ、事業活動におけるリスクと機会の両面をとらえ、中長期目標を策定し、使用電力の再生可能エネルギーへの切替や環境配慮型製品の開発に重点的に取り組んでおります。

なお、バリューチェーンにおけるCO₂排出量の算定・把握については、今後、グループ全体での算定・把握に向けた取り組みを進めてまいります。

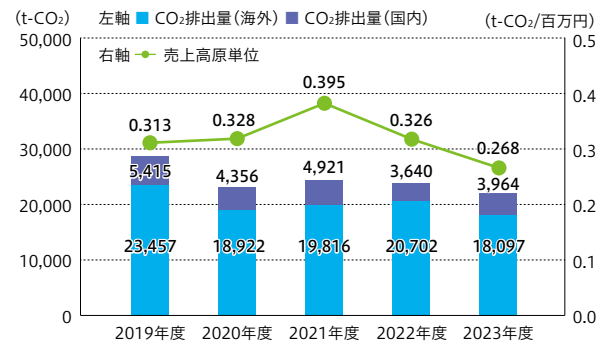
^{*5} マダムグループ 環境データの5年推移 - 日本国内におけるサプライチェーン排出

事業活動におけるCO₂排出量

CO₂排出量推移 日本国内・海外(スコープ1+2)

2023年度の日本国内+海外(スコープ1+2)におけるCO₂排出量は、22,061トンで、2013年度比22.0%の削減となりました。

2023年度は、日本事業において、フィールドスタッフ体制を外委託化したことでガソリンの使用量が減少。また、インドネシアのファクトリー1,2において太陽光パネルを稼働させたことにより、前年対比で9.4%の減少となりました。

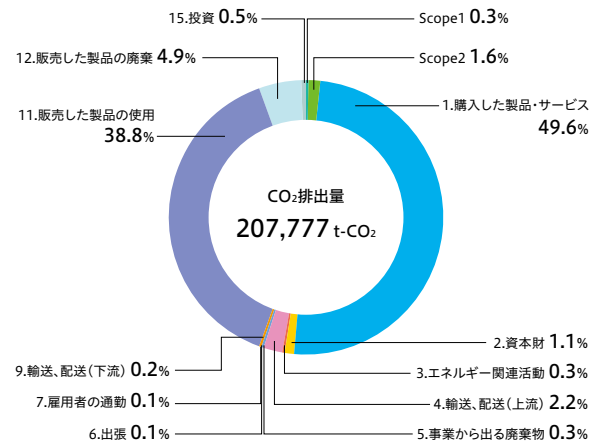


バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量の算定

当社では「脱炭素社会の実現」に向け、原材料調達から製品製造、販売、製品使用、廃棄に至るまでのバリューチェーン全体での温室効果ガス排出量削減が重要であると考え、2018年度より「GHGプロトコル スコープ3基準」に基づき、バリューチェーン全体での温室効果ガス排出量の算定を開始いたしました。

算定により、スコープ3で9割以上を占め、特にカテゴリー1「購入した製品・サービス」、カテゴリー11「販売した製品の使用」時における排出量が大きいことが把握できました。

今後は算定精度を向上させるとともに、上記カテゴリーの排出量削減につながるような環境配慮製品の開発などを通じ、バリューチェーン全体での環境負荷低減に努めてまいります。



算定対象: 日本国内
算定対象期間: 2023年4月～2024年3月

指標および目標

当社では、持続可能な社会の実現に向けて、GHG排出量の把握(スコープ1、2、3)を進めており、一段の取り組み加速が必要であると考え、策定していた長期目標に加え、その達

成に向けた中期目標を2021年12月に策定、グループでの取り組みとして、2022年に実施したシナリオ分析に基づいたリスクと機会における取り組みのロードマップを策定し、その推進を進めております。

グループでのGHG 排出量削減

- 長期目標** • 2050年度において、グループ全体におけるCO₂排出量の「ゼロ」を目指す
- 中期目標** • 2030年度までに日本国内+海外のスコープ1+2におけるCO₂排出量について、「2013年度比で46%以上の削減」を目指す
• 2027年度までに日本国内+海外のスコープ1+2におけるCO₂排出量について、「2013年度比で43%以上の削減」を目指す

関連目標：製品での環境配慮

- 長期目標** • 2050年までにマンダムグループが販売するすべての商品を100%環境配慮製品とする
- 中期目標** • 2027年までに国内で販売するマンダム商品の90%を環境配慮製品とする

リスクと機会における取り組みのロードマップ

シナリオ	分類	リスク・機会	2023年度	2027年度	2030年度	2050年度
1.5° C シナリオ	移行 リスク	・炭素税の導入・上昇 ・再生可能エネルギー電力のエネルギーコストの上昇	スコープ1+2でのCO ₂ 排出量 43%削減	スコープ1+2でのCO ₂ 排出量 46%削減		CO ₂ 排出量 ネットゼロ ※スコープ3を含む
	機会	・包装材料やプラスチック製品の「持続可能な製品」への移行によるコスト ・市場の変化による収益の減少、事業コストの増加	環境配慮製品の推進 (国内販売商品の環境配慮型化90% (~2027年) → 100% (~2050年))			
4° C シナリオ	物理的 リスク	・サプライヤーの被害によるサプライチェーンの分断 ・熱波や干ばつでの水不足による事業活動が停滞するリスク	BCP視点でのサプライチェーンの構築			

取り組み状況

2023年度には、日本事業において、フィールドスタッフ体制を外委託化したことでガソリンの使用量が減少し、スコープ1でのCO₂排出量の削減(前期比 515t-CO₂減)につながりました。また、インドネシアのファクトリー1,2において太陽光パネルを稼働させたことにより、スコープ2でのCO₂排出量の削減(前期比 1,766t-CO₂減)につながりました。その結果、スコープ1,2合計としては、前期比で2,281t-CO₂の減少となりました。

製品での環境配慮への取り組みに関しては、環境配慮製品

の拡充を進めており、2023年度末時点で、国内で販売するマンダム製品の61.3% (2022年度実績 53.5%)が環境配慮製品となっております。

また、気候変動課題に伴う外気温の上昇による市場での生活者価値の変化への対応として、自社独自技術である「Kai-tech技術」を活用した製品(例:「ギャツビー スペースシャワーペーパー 頭皮用/ボディ用」、「マンダム ハッピーデオボディシート うるサラ/極冷」)の展開を実施しております。

再生可能エネルギーの活用

「福崎工場・インドネシア工場太陽光パネルの設置」



福崎工場
新生産棟屋上の太陽光パネル



ファクトリー1(インドネシア)
工場屋上の太陽光パネル



ファクトリー2(インドネシア)
工場屋上の太陽光パネル

「Kai-tech技術」を活用した製品

ギャツビー スペースシャワーペーパー 頭皮用/ボディ用 マンダム ハッピーデオ ボディシートうるサラ/極冷



Kai-tech技術とは

マンダムでは化粧品の機能や使用感の向上を目指して、皮膚における感覚刺激に着目。細胞の感覚センサーTRPチャネル(トリップチャネル)を用いた研究に取り組んでいます。「Kai-tech技術」は、その知見を活用し、より心地よい清涼感を徹底追求するマンダムの独自技術です。「ギャツビー スペースシャワーペーパー 頭皮用/ボディ用」については、宇宙での環境下に合わせて、従来の「Kai-tech技術」による心地よい清涼感をベースに、アルコールが使用できない環境でも快適な清涼感を実現できる技術を採用しています。



マテリアリティ4 持続可能な地球環境への取り組み

取り組み事例 2

製品の環境配慮

私たちマダムグループは、環境配慮を商品価値の一つと位置付け、マダムグループ環境配慮製品基準に則り、社会から共感の得られる価値づくりへの取り組みを進めています。その取り組みの一つとして、私たちが考える環境配慮型製品の基準と中長期目標を設定しております。今後は目標に対す

る進捗状況も確認しながら、持続可能な社会に向けて環境に配慮した商品づくりを推進してまいります。また、この基準については、今後の国内外の動向や技術的な最新情報、多様なステークホルダーの皆さまからのご意見や期待・要請を参考にさせていただきながら、継続的に更新してまいります。

製品の環境配慮基準

ライフサイクル区分	対応する環境問題	環境配慮基準
原材料調達	生物多様性保全/森林保全	内箱・個箱・能書・説明書などの紙資材に古紙パルプ配合率80%以上の再生紙を使用した製品 内箱・個箱・説明書などの紙資材にFSC®認証紙を使用した製品 その他国際的な環境認証制度や指標などをクリアした原料・資材を使用した製品
	気候変動/脱炭素・CO ₂ 削減	容器包装資材に植物由来資材バイオマス度25%以上を使用した製品 ラミネート包装材に植物由来資材バイオマス度10%以上を使用した製品 容器包装資材にリサイクル原料使用率25%以上を使用した製品 ラミネート包装材にリサイクル原料使用率50%以上を使用した製品
製品の使用	水資源使用量の削減	基準品と比較し、使用時にドライヤー使用電力、給湯器ガス使用量など20%以上削減の製品
廃棄	廃棄物の削減	基準品と比較し、本体容器包装資材の削除、または軽量化・薄肉化など10%以上削減の製品 基準品と比較し、1個箱の削除または軽量化10%以上削減の製品 本体容器重量と比較し、容器重量が50%以上削減の詰め替え製品
	プラスチック廃棄物の削減	石油由来プラスチック樹脂製資材から代替資材(紙・ガラスなど)へ切り替えた製品
その他	リサイクル循環型経済への対応	分別廃棄への対応と単一素材(モノマテリアル)を使用した製品

(注) 1. 上記項目を一つ以上満たす商品を環境配慮製品とする。
2. 基準品は環境理念を改訂した2016年の製品。

(FSC® N003667)

「Reduce」における事例

マダム ハッピーデオ フェイスシートをリニューアルする際に、外装削除により10%以上のプラスチック削減を実現しました。



「Reuse」における事例

本体容器の再利用と廃棄物削減を目的に詰め替え製品を開発しました。



「Recycle」における事例

「ギャツビープレミアムタイプデオドラントロールオンシリーズ」や、「ルシードエル #マルチアレンジスティック」のプリスターにリサイクル資材を採用しています。



「Renewable」における事例

「GB ヘアセルフカットセット」「GB メンズアイブローキット」の外箱やハサミなどを収納するケースをプラスチックから紙製に変更しました。



WEB : その他の事例は、HPをご確認ください。
: サステナビリティ>環境(E)>環境配慮商品・販促物

取り組み事例 3

返品廃棄削減の取り組み

私たちは、廃棄物削減の一環として、商品の返品削減に取り組んでいます。小売業様との取り組みに対しては、適切な時期での発注ストップによる在庫管理とマークダウンを活用し削減させています。また、代理店様との連携として、定期的な在庫

データ取得による在庫管理と過剰在庫防止を行っております。

今後は、小売業様・代理店様と連携していき、需要予測の精緻化、過剰在庫の発生を防ぐための適正在庫管理を実施してまいります。